THE ROTARY CLUB OF NAGOYA WAGO 名古屋和合
WEEKLY 2760地区 REPORT

Reach Within to Embrace Humanity
こころの中を見つめよう　博愛を広げるために
2011-2012年度　国際ロータリー会長　カルヤン・バネルジー

2011-2012年度　会長 天野清美　幹事 端山佳誠　クラブ会報委員長 亀井敏勝
創立/1972年３月15日　例会日/水曜日　12:30～13:30
例会場/ウェスティンナゴヤキャッスル 名古屋市西区樋の口町3-19 〒451-8551
TEL 052-523-1998　FAX 052-531-0727

2012 February 1

■ 2011～2012年度方針
「学び、楽しみ、育てようロータリー」

NO.26

例会報告

●第1931回例会　平成24年２月１日（水）曇
●２月は世界理解月間
●君が代
●ロータリーソング　奉仕の理想

●出席報告　会員 101（95）名中　出席75名

出席率78.95%　修正出席率87.50%
（１月18日分）

●ビジター紹介（ビジター受付）
志水　ひろみさん（春日井ＲＣ）
●ゲスト紹介
・久保哲政君ゲスト　山村　博伸氏
・元米山奨学生　ダオ・トリン・チン・ニャン君
●ニコボックス
「今日は、お世話になります。」
志水ひろみさん（春日井ＲＣ）
「本日の卓話、楽しい話がたくさんあります。どうぞお楽しみに。」　加藤重和君
「加藤重和さんへ、今日の卓話よろしくお願いします。カンボジアでの苦労話を聞かせて頂きます。」
槇野智之国際奉仕委員長
「加藤先生のおかげで生き延びた山田です。今後はロータリーを中心に頑張ります。よろしくお願いします。」　山田明紀君
「山ちゃん、全快おめでとう！貴殿は我がロータリーの宝です、是非、長生きして下さい。」
岩田玄知君
「本日ゲストとして山村さんに参加して頂きました。入会予定ですので皆様よろしくお願い致します。」
野崎敏夫君、久保哲政君
「今月の御園座で次男が歌舞伎の子役で出ることになりました。初舞台ですが見る機会があれば子役にも注目してやって下さい。」　山田和弘君
「先日ワンの会で優勝させて頂きありがとうございました。一緒に回ったW田中さん夏目さんありがとうございました。」　関　貴之君
「次回コンペはがんばります。」　梶田浩太郎君

本日のニコボックス	9件	25,000円
累　計	177件	1,760,600円

端山幹事報告

▽当クラブ行事予定
・２月14日(火)　ＩＭ（千種ＲＣホスト）に全員登録のため、東急ホテルに例会変更致します。２月15日(水)の例会はございません。
・２月29日(水)　例会終了後、理事会を開催致します。

天野清美会長挨拶

先週は「意識する」をテーマにお話しさせて頂きました。
今週は「思い込み」について触れてみたいと思います。
「思い込み」にも色々ありますが、今日は高齢者にだけできるアンチエイジングに役立つ話を御紹介致します。
年を取ると「思い込み」が激しくなり、他人の意見をあまり聞かなくなります。頑固でどうしようもないと思われがちですが、これが老後のアンチエイジングの実践に役立つのです。
現役で働いている時は、独りよがりにならないように色々な人の意見も聞いて行動する為、何かとストレスが溜まります。しかし、引退して自由な老後は、他人に迷惑さえかけなければ、気を遣う事はもはや必要ではありません。
年を取ると自分がいつも正しいと思い込んでいる為、他人の事など気にもならない。マイペースでストレスのない生活ができるのです。まさに「鰯の頭も信心から」と言われる様に、何事も一途に思い込んでいると願いが叶う事も多くなるのです。
このような「思い込み」だけで病気が予防でき、元気になれる。これが自分の健康法だと思い込んでいれば健康になれる場合もあります。
食事、趣味、運動、旅行など何でも良いので「これをすれば健康で長生きできる」という「思い込み」をして、独自の健康法を実践してほしいと思います。
一言付け加えますと「老いらくの恋」も「思い込み」の一つですが、こちらの方は程々にされる方がよろしいかと思います。

卓　話

カンボジアに魅せられて

会員　加　藤　重　和

現代の日本人にとって、カンボジア王国は、まだ、それほどのなじみが無いかもしれません。
せいぜい、世界遺産のアンコールワットがあるくらいで、同国を訪れる日本人の大部分が観光客であり、ビジネスでの繋がりは、まだ希薄です。
隣国のタイやベトナムなどへは、500社以上の日本企業が進出しているのに対し、カンボジアに進出している日本企業は、昨年度までに、わずか14社であり、とにかくカンボジアと言う国が、我が日本経済に与える影響は、まだまだ少ない。

そのため、昨年の大洪水の折も、タイの状況はさかんに報道されるが、カンボジアが同様の災害に見舞われている様は、報道されなかった。
私が、カンボジアの子供教育に興味を持ったのは、今から10年以上前、サラリーマン時代、よく足を運んだ名東図書館で、南アフリカの写真家、ケビン・カーターの、あの有名な「ハゲワシと少女」の写真を見た時に始まります。
自分の一生の中に、一度でいいから、世界のどこかで、自分が誰かの役に立つシーンが必要であると思ったものです。
やがて、自分の会社を立ち上げ、７年目の社内会議で、全社員にその想いを打ち明け、３年後の10周年記念行事として、カンボジアでの小学校建設に始まり、以後10年間に及ぶ、現地の子供教育計画、「カンボジアプロジェクト」を公表しました。
カンボジアって、どんな国かと言いますと、ロケーション的には、タイ、ベトナム、ラオスに隣接する、国土面積18万平方キロメートル、人口1500万人の農業国です。
首都はプノンペンで、ここには、約110万人が生活しています。
同国は、もともとフランスの植民地であったわけですが、その後を支配したポルポト政権による、世界史に残る200万人の大虐殺と言う、悲惨な歴史があります。
それが、今からわずか27年前の出来事であり、その後続いた内戦が終わって、今の平和が訪れたのは、まだ十数年前と言う状況です。
国内総生産は、わずか１兆円で、かなり貧しい国ですが、国民の60％以上が40歳以下と言う非常に若い国であり、政治形態は、立憲君主制で、日本と同じです。
ただし、教育、医療は著しく遅れており、特に、都市部と田舎の教育格差、所得格差が著しい。
2010年の夏、カンボジアとの関わりを求めて、在名古屋カンボジア領事を訪問、当社のカンボジアプロジェクトを説明したところ、高田領事の理解と協力を得る事ができ、カンボジアの外務副大臣宛に、英文での計画文書を届けてもらって、ここに、同国への道が開けたわけである。
その後、当社が10周年を迎えた同年10月、初めてカンボジアに足を踏み入れました。
プノンペンで、当の外務副大臣「オチボレット氏」と会談、その後の会食で、言葉の壁を乗り越えて意気投合できた事は、私にとって、この上ない感動でした。
プロジェクトの概要ですが、単に小学校の建物建設にあらず、そこに集う子供たちの教育レベル向上を目指すものであり、特に、日本独自の文化の伝承、および日本語教育を施そうと言うもの。
場所は、都市部ではなく、少し離れた農村地帯とし、そこから、将来の国を背負う若きリーダーを輩出、かつ、流暢な日本語を話す農民が出現する頃を見計らって、日本企業を誘致、村の経済発展を目指し、行く行くは、国の発展に貢献しようと言うものです。
具体的な場所決定については、副大臣の意向を反映して、プノンペンから50キロほど北に位置する、コンポンチャム州サンカップ村に実存する、既存の「サンカップ小学校」の再建計画とし、そこに集う600人の子供たちのうち、４年生以上を、無料日本語教室の対象とする事にした。
既存の校舎は、数十年前のポルポト時代に建てられた木造校舎で、廃屋同然であった事から、まず、環境を整えるため、敷地内に、鉄筋校舎を１棟建設し、その後、廃屋を取り壊して、そこにもう一棟鉄筋校舎を建築する事とし、その場で契約、着工を指示、その２日後には、地鎮祭、起工式と言う急ピッチで、イッキに事が運んだ次第です。
肝心の子供教育に関しては、昨年２月（今から１年前）、プノンペン大学を訪問し、そこの外国語学部日本語学科の学生たちと懇談、彼らの類希なる向学心、愛国心、自国の抱える問題意識に、大いに感動した。（今時の日本の大学生とは、かなり違う）
子供教育に関する論文を発表する学生もおり、学科長であるラスミー教授とも相談して、優秀な学生２名を選抜、週一回日曜日に、サンカップ小学校での日本語教室に派遣、わずかなバイト料で、教師として働いてもらう事とし、今も続いている。（大洪水の時は、さすがに休校でした）
子供向けの日本語教育は、カンボジアでは始めてであり、そのための教材も皆無であった事から、新たに教科書作成に着手したのも、１年前です。
同大学で教壇を取る、子供教育の専門家、セタリン教授の監修の元、「たのしい日本語」が完成、プノンペンの印刷屋で、500冊を作成した。
東北大震災の10日後、３月21日に校舎が完成し、現地で竣工式が行われたが、式典の最初に、黙祷などがあり、カンボジアの人たちの親日感情の深さを改めて体感した。
彼らの国民性は、今の日本人に比較すると、非常に素直、素朴、純情、昔の、戦後間もない頃の日本を髣髴とさせるものがあり、まさに、カンボジアに魅せられたわけです。
経済の豊かさと、人々の心の豊かさは、何となく反比例しているかもしれません。
このカンボジアプロジェクトのニュースが、３月15日の中日新聞に掲載されましたが、これを見て、多数の御協賛や励ましのお言葉を頂戴した一方、「けしからん」と言うご意見も多数寄せられ、会社の業績に、大きな悪影響を与えた事も事実であり、これは予想外で、残念でたまらない。
考えて見れば、私の会社は、地主から土地を借りて駐車場経営を営むものであり、地主にしてみると、そんなところに持って行く金があったら、賃料を上げろと言う心境にもなろう。
日本人の心がすさんで来たのか、あるいは、自分の考えが甘いのか、大いに悩まされた事も、最後に報告しておきたいと思います。
次回のカンボジア遠征は、今月下旬を予定しています。

例会	月日	**今後の予定**
第1932回	２.８	日本山岳会会長　尾上　昇氏 「山と山の日」
第1933回	２.14 （火）	IM全員登録のため名古屋東急ホテル ２／15（水）を例会変更
第1934回	２.22	作家　西尾　典祐氏 「マダム貞奴・逆転の人生」
第1935回	２.29	40周年卓話 天野　俶明2004～2005年度会長 谷　喜久郎2008～2009年度会長
第1936回	３.７	塚原　光雄氏

○このウィクリーは再生紙を使用しております。